



広々とした緑地帯、歩行者専用道路、修復の整った中世の街並み、バランスの取れた経済発展など。アラバ県の県都は、ヨーロッパの中でも生活水準の高い都市の一つに選ばれています。

ビトリア ガステイス



「この町には魅惑的な雰囲気がある。お伽噺に出てくる、クリスタルの釣鐘の下に納まった町の雰囲気だ。きらきらときらめいて、瞬く間に大事な知らせを旅人に伝える...」

小説家イグナシオ・アルデコアがこう記した、ビトリア-ガステイスの不思議な魅力を見つけるのは、あなたです。ここバスク自治州都の生活水準の高さが国内でも屈指のものであることは、客観なデータが証明しています。緑地帯、歩行者専用道路、市民向け設備の高い質など古い中世の街は、類まれな住み良い街になっています。

人口一人当たりの緑地帯が20平方メートル。ビトリア-ガステイスは、自然空間の割合が国内で最高、またヨーロッパでも有数の街です。

公園が40、木が8万本、灌木が20万本。統計値は、まさにこの州都が植物園のような都市であることを表しています。マロニエ、プラタナス、シナノキ、トネリコなど見なれた品種の木が、新大聖堂の近くにある巨大なセコイヤやカスティージョ・デ・オシオ通りを飾るイチョウ並木、日本イボタノキといった外来種の木と共存しています。

一番有名な公園は、市の中心にあるフロリダ公園です。工事の着工は1820年、現在でも19世紀のフランス庭園が見事に保存されています。

フロリダ公園から始まる3キロの散歩道は、バスク・ロマネスク芸術の至宝サンプルデンシオ教会堂のあるアルメンティア草地まで並木で結ばれています。

市内の公園の中で特に見事なのは、昔の家畜用牧草地が19世紀に公園に改造された、プラド公園です。フディメンディ公園は、旧ユダヤ人墓地(追放までビトリアの発展に貢献したユダヤ人社会への追悼として建てられた石碑)の上にあります。18ヘクタールの敷地を持つファン・デ・アリアガ公園は、市内最大の公園です。円形競技場やスポーツ施設を備える湖のほかユダヤ教のサンファン礼拝所があり、その敷地では、当時のアラバ運営組織である、アリアガ組合の会合が開かれていました。

アリスナバラ、モリヌエゴ、サンマルティンといった市内各地区の公園はもちろん、サルブルア、オラリス、アルメンティア、サバルガナなどの公園から成る市を取り囲む「緑の輪」によって、ビトリア-ガステイスでは居ながらにして自然を満喫することができます。

強固な広場から商業の街へ

ビトリア-ガステイスには、緑の空間がたっぷりあるだけでなく、石の色調もふんだんに備えています。つまり、1997年に指定された中世の歴史的建造物群を、バスク県都の中でももっともよい状態で保存しているのです。



1181年、ナバラ賢王サンチョ6世はナバラ王国の防衛のためヌエバ・ビトリアの町の建設を決めました。そのときすでに、アラバ平原の小高い丘の上にガステイスという名の小村が存在していたのです。わずかに道路3本と城壁で作られた中世の町は、まもなくカスティーリャ王国の包囲攻撃を受け1220年に降伏を余儀なくされます。

その後の火災を経て町の復興と拡張が行われ、東に向けて新しい“コレリア＝革紐屋通り、エレリア＝鍛冶屋通り、サパテリア＝靴屋通り”という3本の道が敷かれ、数十年後、西向きに新しい道、“クチリエリア＝刃物屋通り、ピントレリア＝塗装屋通り、フデリア＝ユダヤ人街通り”の3本が設けられました。

道の名前から、強固な広場の性質が、様々な手工芸品の売場で商業の街へと変換を遂げていった経緯がうかがわれます。手工芸の工房所有者の繁栄を通じ、質素な家から、やがて貴族の館や豪邸も建っていきました。

楕円を描く旧市街の道を散策すると、コルドン邸、アンダ塔、ポルタロンなど、所狭しと並ぶ中世の美しい建物を見ることができます。エスコリアサ・エスキベル邸、ピリヤソ邸、ベンダーニャ邸、モンテエルモソ邸など、ルネッサンス式の館も数多くあります。これらの建物は、はるか昔の建築スタイルを保ちつつ、現代の技術のお陰で生き延びており、ほとんどの建物は、博物館や市民センターになっています。

ワインの皮袋などの手工芸品工房の再生や若者向けのタベルナの急増で、旧市街の復興が、建築面だけに留まらないことがうかがわれます。

4つの教会

旧市街にそびえ立つ4つの塔は、サンタマリア大聖堂または旧カテドラル（荘厳なゴシック式要塞教会。見事な修復作業のお陰で、観光ルートから外してはならないスポットとなっています）、同時代に建てられたサンベドロ教会、アラバで唯一サロン式の構造を持つサンピセンテ教会、サンミゲル教区教会の4つの教会のものです。サンミゲル教区教会の中には、市の守護聖人のビルヘン・ブランカがまつられており、この教区組合が、ロサリオ・デ・ロス・ファローレスの行列を取り仕切っています。

サンミゲル教会に隣接して、段々になった柱廊が続く一連の建物の集合ロスアルキリーヨスがあります。これは、旧市街と、拡張前に美しいスペイン広場から始まったネオクラシック様式の新開発部との高低差を、見事に解決した創意に富んだ建築例です。

新開発部の中心は、ビルヘンブランカ広場、ポスタス通り、ダト通りで、目を見張る彫刻がいくつかあります。いずれも歩行者天国で、商業活動と人の往来が活発なところでは、ビルヘン・ブランカ広場では、セレドンと呼ばれるおなじみの主人公の降下で始まる8月の守護聖人のお



ビトリア - ガステイスの旧市街は、大きな楕円形で、美しい中世の塔やルネッサンス様式の豪邸がひしめいています。

祭りがおこなわれるところです。その他ビトリアのカレンダーの中で重要なものとして、4月のサンプルデンシオ、7月の国際ジャズフェスティバルや演劇とビデオのフェスティバルなどがあります。

ミュージアム都市

市内にふんだんにある文化センターや市民センター、数々の博物館を語ることなしに、この街の文化は語れません。ビトリア - ガステイスは、文化面では先駆者的存在なのです。おそらく一番個性的なのは、ベンダーニャ邸の中にあるフルニエル・トランプ博物館でしょう。この博物館には、あらゆる時代と題材のトランプ2万種類以上のコレクションが納められています。考古学博物館(ゴベオ邸)では、先史時代やローマ化の時代、中世初期のアラバを垣間見ることができます。

着工に20世紀の60年間を費やした新カテドラル内にある宗教芸術教区博物館では、アラバの宗教的遺産の数々をお楽しみください。自然科学博物館(ドーナ・オチャングの塔)では、鉱物や化石のコレクションが見ものです。

アフリア - エネアに隣接する武器博物館では、武器や鎧兜の徹底的なコレクションが納められています。すぐ近くには、美しい庭や部屋のあるアウグスティ邸の中に展示された絵画博物館があり、バスク風俗写真主義や現代美術のセクションがあります。

旧市街の近くには、バスク現代美術センター、アルティウムがあります。ビトリアの博物館群に最近加えられたこのセンターは、1万3千平方メートルの敷地を持ち、現代美術の非の打ち所のないコレクションがテーマ別に展示されている他、さまざまな活動や企画展も行われています。

エウスカディの首都

前述最後の2つの博物館は、フライ・フランシスコ・デ・ビトリア通りにあります。この通りには、他の豪邸と並んで、スイス人建築家のアルフレッド・ベシュリンが設計したバスク風大邸宅バスク自治政府レエンダカリ(大統領)公邸アフリア - エネア邸があります。1980年、ビトリア - ガステイスをバスク自治州の首都にする決定は、市にとって大きな転換期となりました。ビトリア市は、近郊のラクアへと拡張を続け、そこにバスク自治政府関連のさまざまな建物が建設されました。アフリア - エネア邸の改造の他、フロリダ公園の隣にあった古い高校が改造され、バスク自治議会場が建設されました。

ビトリア - ガステイスは、バスク自治州の首都であり、またアラバ県の人口の4分の3以上を吸収する県都でもあります。バランスの取れた経済発展と生活の質の向上は、20世紀を通じて促進されてきましたが、特に20世紀後半の数十年間に顕著で、この落ち着いた感じの良い商業と行政の都市、歩行者に優しい都市に人口集中の現象が起こりました。

歩いて ...

ビトリア-ガステイス 歩行者の街

落ち着いた街、ビトリアガステイスの徒歩観光のスタートは、中心のビルヘンブランカ広場から。ここは、セレドンが登場して開幕されるお祭りの期間だけ、街の中心



になるわけではありません。奥にサンミゲル教区教会、バルコニーの美しい家々の立ち並ぶ広場には、ビトリアの闘いの記念碑が建っています。

エレリア通りを歩いて左手の旧市街に入ります。この通りにはアラバエスキベル邸と見事なゴシック式ポルチコのサンベドロ教区教会があります。

さらに先へ進むと、ドーナ・オチャンダの尖塔が見えてきます。狭間胸壁が頂きを飾るこの塔の下には、ビトリアの街の数々の博物館の一つである自然科学博物館が入っています。

神学校寄宿舎の階段を登ると、左手に“ボラトキ”と呼ばれるポーリングの遊び場ブルリエリア広場があります。ここは、古い建造物に囲まれた魅力的なスポットです。

現在は考古学博物館で、もと鉄砲鍛冶屋のゴベオ邸、レンガと木の造りが中世の味を残す旧宿屋ボルタロン、アンダの塔など、これらはいずれも15世紀と16世紀の古い建物です。

すぐ近くには、ガステイスで一番小高い場所、サンタマリア大聖堂(旧カテドラル)があり、ゴシック式の3重の戸口には聖書の話からの装飾が、ふんだんにあしらわれています。

フライサカリアス・マルチネス通りには、エスコリアサ・エスキベル邸やモンテエルモソ邸といったルネッサンス式の美しい豪邸が立ち並んでいます。エスクエラス通りを通り、サンタアナ寄宿舎の階段を下ると、現在はフルニエル・トランプ博物館となっ

ているベンダーニャ邸に着きます。サンフランシスコ・ザビエル寄宿舎を下ると現代美術博物館アルティウムに出ます。

クチリエリア通りに戻ってカサ・デル・コルドン(紐邸)に出ます。この中世の塔の館の扉には、見事な飾り紐の浮き彫りが残っています。

クチリエリア通りを右に曲がると、13世紀から19世紀までの、さまざまな時代の魅力を散りばめたサンビセンテ教会があります。



どっしりしたパラシオ・デ・ピーリャ・スソの脇の階段を下り、広々としたマचेテ広場に出ます。この広場の建物の反対側にはアーチが施され、アルキーリョと呼ばれるこの地区を一望にできます。

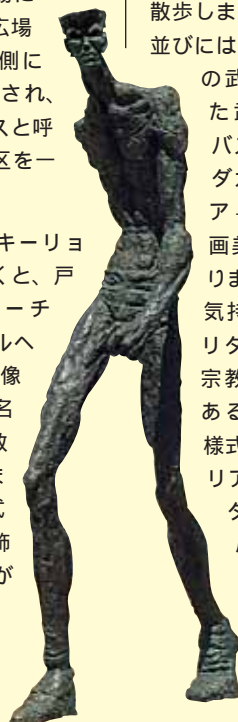
そのままアルキーリョを進んでいくと、戸口の2つのアーチの間にあるビルヘン・ブランカ像の大きさで有名なサンミゲル教会に出ます。また、バロック式の祭壇背後装飾も一見の価値があります。

ビルヘンブランカ広場へ降りて、今度は歩行者天国の新しい街へ入ります。ポスタス通りからは、優美なネオクラシック調のスペイン広場が見えます。広場の敷地は完璧な正方形になっており、北翼には市庁舎があります。

郵便局の建物を目にしながらそのままポスタス通りを進むと、近代的なフエロス広場に出ます。ここから来た道をちょっと戻ってもう一本の歩行者専用道路エドワルド・ダトに因んだ道に入りましょう。ここはビトリアのショッピング街と人の往来の中心、そこに置かれた彫刻の数々にも目を奪われるでしょう。フロリダ通りへ曲がってしばらく行くと、フロリダ公園の端にたどり着きます。ここからアルメンティア教会堂までは、3キロの散歩道が伸びています。

ラセンダ通りという樹齢100年以上の木の立ち並ぶ並木道と、豪邸に囲まれたフライフランシスコ・デ・ビトリアを少し散歩しましょう。豪邸の並びにはさまざまな時代の

武器が展示された武器博物館や、バスク自治州レンダカリ邸のアリア・エネア邸、絵画美術館などがあります。気持ちのよいフロリダ公園に戻って宗教芸術博物館のあるネオゴシック様式の新大聖堂(マリアインマクラダ大聖堂)までぶらぶら散歩するのもよいでしょう。



オリジナル フルニエル博物館には、世界中から集められた14世紀から今日に至るまでのトランプのコレクションが納められています。



完璧 建築の専門家に、こう称えられているのは、旧市街と新しい街間の高低差を目立たなくするために、18世紀の建築家が講じた対策です。



可視 サンミゲル教会の誇るビトリアの守護聖人ビルヘン・ブランカの彩られた優しい姿は、その名と同じ広場から目にすることができます。



抽象的 チリィダとペーニャ・ガンチェギが設計したフエロス広場の外観。御影石の段々とエリキローラック(バスク独自のスポーツ)用スポットのくぼみが、抽象的です。



調和 アウグスティ邸にある絵画博物館。建物と庭園のすばらしさとバスクアカデミーの作品、近代彫刻、スペイン絵画(17世紀と18世紀)が美しく調和しています。



ロマンチック フロリダ公園には、池、塚、木々、音楽堂が、19世紀から変わらず共存しています。

